

正月の風景は、昔に比べてかなり様変わりしましたねっ。
昔を知る人にとっては、少し素っ気ない正月になった気がしませんか？
そこで、昔懐かしの子供に残したい正月の遊びをご紹介します。
子供たちは、以外に新鮮な楽しさが味わえるのではないのでしょうか？
是非、お父さんお母さんには童心に戻って、お子さんたちと遊んでみてください。

お正月のむかし遊び



羽根つき

羽根つきには、【突き羽根】ひとりでも何回突けるか競う遊び方と【追い羽根】ふたりで突いて勝負する遊び方の2種類があります。【追い羽根】は、打ち損じたら顔に墨を塗ります。

中国で羽根に硬貨をつけたものを蹴る遊びがあり、これが室町時代に伝来しました。当時の宮中の様子を記録した『看聞御日記』(1432年)では、羽根つきに負けたらお酒を振舞っていたと記録されています。その後、羽根つきで厄祓いできると信じられるようになり、江戸時代には、年末になると邪気を祓うための羽子板を贈るようになります(浅草の羽子板市は有名ですね)。さらに、羽根に使われるムクロジの実を「無患子」と書き、子どもが患わないという魔除けに通じるものとして、女の子の初正月に羽子板を贈る風習が生まれます。『世説問答』(1544年)では、羽根のとぶ様子がトンボに似ていることから、子供の病気の原因となる蚊に刺されないよう、蚊の天敵であるトンボに見たてて、正月に羽根つきをするようになったと書かれています。羽根つきは1年の厄をはね、子供の健やかな成長を願うものとして、親しまれてきたのです。打ち損じると顔に墨を塗るのも、魔除けのおまじないです。



凧揚げ

より高く揚げて楽しむだけでなく、相手の凧を落としたり、糸を切ったりする「凧合戦」「凧喧嘩」などもあります。

古来中国では、凧あげは古いや戦いの道具のひとつでした。日本には平安時代に貴族の遊戯として入りましたが、戦国時代には、敵陣までの距離を測ったり、遠方へ放火する兵器としても活用されていたそうです。やがて江戸時代になると男の子の誕生祝いとして凧あげをするようになり、庶民の遊びとしても広まってきました。昔から「立春の季に空に向くは養生のひとつ」といわれたことから、立春に凧あげをするようになりました。昔は立春から新年となったので、ここからお正月の遊びとして定着したのです。お正月の風物詩でしたが、最近のはびのびと凧揚げをする場所も少なくなってきましたが、チャンスがあれば是非楽しんでみてください。



碁

「盤双六は」1対1で対戦し、将棋盤のような双六盤の上でサイコロに従って多数の駒を動かすゲーム。お馴染みの双六を「絵双六」といいます。

「盤双六は」の歴史は古く、日本書記に記載(689年付)されていたり正倉院に残されているほどで、江戸時代には嫁入り道具になったほどでしたが、現在はほとんど姿を消しました。西洋版の盤双六が「バックギャモン」というゲームです。この盤双六と区別するために馴染みの双六を「絵双六」といいます。絵双六のルーツに「浄土双六」があるのですが、これは極楽浄土への道筋を現したものでした。やがて東海道五十三次を進んでゆく「道中双六」や「出世双六」が江戸時代に人気をよび、お正月などに親しまれるようになります。大正時代になると「少年倶楽部」などの雑誌の付録として様々な絵双六が登場し、量めば薄くなって見栄えも良いため、新年号の目玉付録として定着していきました。



かるた

【かるた】は読み手+ふたりの3人以上で遊びます。ふたりしかいない場合や、まだ文字が読めないお子さんの場合、百人一首の絵札の山をめぐっていく【坊主めぐり】はいかがでしょう。

読み札と絵札を使ったカードゲームで、百人一首を用いた「百人一首かるた」と、いろは歌を用いた「いろはかるた」があります。かるたの語源はポルトガル語ですが、平安時代の貝合わせがルーツです。「百人一首かるた」は平安時代につくられた様々な和歌集を鎌倉時代に京都の小倉山に住んでいた藤原定家が集めた「小倉百人一首」でできており、宮中の遊びだったものが江戸時代の木版画技術によって庶民に広がり、お正月に楽しめるようになりました。「いろはかるた」は「犬も歩けば棒にあたる」などのことわざを用いたもので、子供でも理解しやすい内容ですし、ことわざを覚えるのにも役立ちます。面白いのが、いろはかるたの内容が江戸(江戸いろはかるた)と京都(京いろはかるた)など地域によって異なります。例えば、江戸で「い」は「犬も歩けば...」ですが、京都では「一寸先は...」となります。



おせちばなし

節句に神様に食物を供えたことから始まった「節会(せちえ)料理」をさす言葉です。節句の中でも最大の行事である正月には、豊作や健康、家の繁栄などを願って、身近に採れる材料を利用して縁起をかついだ料理を作りました。江戸時代中頃には、その中の正月の料理のみが「御節料理」と呼ばれるようになりました。



数の子

数の子にはしんの卵。二親(にしん=両親)からたくさんの子供ができることにあやかって、「子孫繁栄」の意味。



田作り(ごまめ)

片口鱈の稚魚。「五万米」という字を当て、五穀豊穡を願う。片口鱈を田の肥料で使われたので「田作り」とも言う。



海老

長いひげと腰が曲がっている姿を老人に見立て長寿を願う。



黒豆

黒色は中国の信仰では邪気を払い不老長寿をもたらす色。黒は健康を表し、まめに暮らせるよさという意味。



たたきごぼう

ごぼうは、根が地中深く張るので、家の基礎がしっかりするよさにとの願いを込める。



昆布巻き

昆布は「喜ぶ」とかけるほか、古代には「ひろめ」と呼ばれていたことから、名前や喜びや運をひろめる(ひらく)という縁起物。

年末に向けての大掃除役立ち小技

ブラインドの掃除

ホコリがたまりやすく掃除のしにくいブラインドの掃除には、雑巾のかわりに軍手を使用し、洗剤入りのバケツに入れて軽く絞ったあと、手にはめてブラインドの間に指を入れて拭くと簡単に掃除する事が出来ます。

カーペットに付いた毛

カーペットに絡みついた髪の毛やペットの毛は掃除機などではなかなか取り除くのは難しいもの。そんなときは、亀の子タワシで軽くなると比較的簡単にとりのぞく事が出来ます。

換気扇の汚れ

油や煙で汚れやすい換気扇の汚れは、換気扇を取り外した後、小麦粉をまんべんなくふりかけて、しばらくおいておくと、油が浮いてくるので、それから熱い湯で絞った布で拭くと、比較的簡単に汚れを落とす事が出来ます。

カーテンの汚れ防止

汚れや匂いが付きやすく、洗濯が面倒なカーテンには、全体に防水スプレーをかけておくと、ホコリや油汚れ、タバコのヤニなどが付きにくくなります。

リンゴの芯

食べ終わった後に残るリンゴの芯。捨てる前に、流し台の周りをタワシのように使ってこすると、リンゴに含まれるペクチンが脂肪や澱粉を溶かして流し台がピカピカになります。



超・経済的なガラス掃除方法

空気の汚れやホコリ程度の汚れであれば、洗剤は不要です。新聞紙を適当な大きさに破って丸め、水で軽く湿らせたもので拭いてみましょう。そしてガラスについた水分が乾かないうちに、今度は乾いた新聞紙でからぶきします。新聞紙のインクの成分により、この作業でピカピカになりますよ。終わったらゴミ箱にポイで、経済的です。新聞紙がない場合は、水拭きを2回繰り返して、最後にきれいなタオルで乾拭き。水拭きは、タオルの面を変えて常にキレイな面で拭くのがコツです。



茶葉で消臭

焼肉や魚を焼いた後の嫌な匂いには、湿気てしまったお茶の葉をフライパンで茶色になるまで煎ると、部屋の匂いを消し、室内にお茶の葉のいい香りが広がります。

今年もあと僅か、大掃除をしてピカピカの住まいで新たな年を迎え、お正月は、忘れかけている良き日本のお正月を楽しんでみてはいかがでしょうか。

☆☆☆良きお正月をお迎えくださいませ☆☆☆